平和ナガサキ

（小学生用　平和学習資料集）

長　崎　市

はじめのことば

1945（昭和20）年８月９日，午前11時２分，ここ長崎に一発の原子爆弾が落とされ，一瞬にして，美しい長崎の地は廃墟（はいきょ）と化し，かけがえのないたくさんの命がうばわれたことは，皆さんこれまでの平和学習で学んできたことと思います。

ここに平和学習のための資料として「平和ナガサキ」をつくりました。この平和学習資料を大いに役立てて，原爆資料館等一日学習などで，原爆による被害の様子や最近の平和へ向けた動きなど，平和についての学習をもっと深めていってほしいと思います。

そして，長崎でおきた悲しいできごとがけっして忘れ去られることのないよう，胸に深くきざみこみ，皆さん一人一人が平和への思いをいつまでも持ち続けてほしいと願います。

もくじ

１　長崎の歴史…… 1
（１）被爆前の長崎
（２）原子爆弾投下

２　被害の様子…… 2
（１）熱線による被害 …… 3
（２）爆風による被害 …… 6
（３）放射線による被害 …… 9
（４）救援・救護活動 …… 10
（５）永井　隆　博士 …… 11

３　被爆者の訴え…… 12

４　核兵器をめぐる今日の動き…… 14
（１）核兵器をさらに研究・開発し，戦争に備える動き …… 14
（２）核兵器の開発や使用をおさえたり反対したりする動き …… 15

５　平和は長崎から…… 16
長崎市で行われている平和に関するおもな行事…… 17
長崎市の小・中学生の平和の取組み…… 18

６　被爆地めぐりをしよう…… 19
被爆地めぐり地図

クイズコーナー …… 27

（表紙）平成20年度世界平和祈念ポスター・標語展　小学４年の部　優秀賞

長崎市立西浦上小学校　伊藤　光成さんの作品

1　長崎の歴史

私たちが住んでいる町『長崎』には，どんな歴史があるのでしょうか。

（1）　被爆前の長崎

長崎は，江戸時代の鎖国政策（外国との交通や貿易を禁止）のもと，海外に開かれた日本でただ一つの町で，外国文化の伝来地・貿易港として発展しました。

しかし，明治時代の終わりごろになると，長崎は，造船の町へと変わりました。

幕末期の長崎港図 長崎歴史文化博物館 所蔵

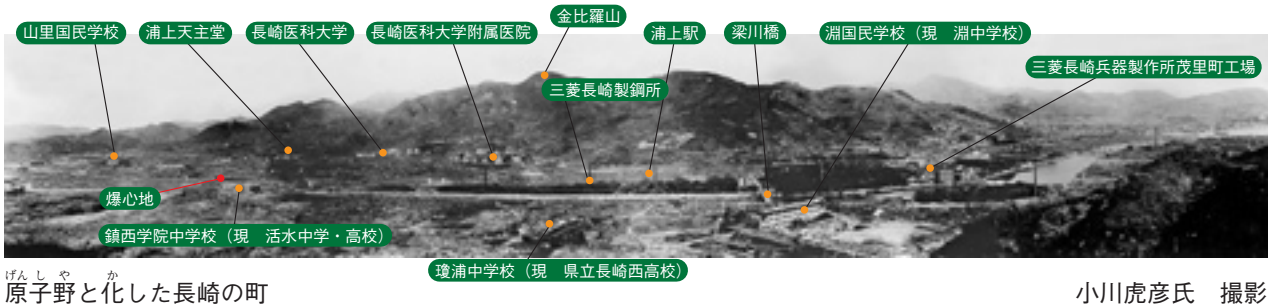
（2）　原子爆弾投下

昭和に入る前から日本は中国に侵攻していましたが，アメリカやイギリスなどの国々とも戦争をしました。そして，長崎の町でとても悲しく痛ましい出来事が起こりました。

人類史上初めての原子爆弾が広島に投下された３日後の 1945（昭和 20）年８月９日，午前 11 時２分，２発目の原子爆弾がアメリカ軍のB29(爆撃機)によって，長崎市の北部(現在の松山町交差点付近)へ投下されたのです。長崎の町は一しゅんのうちに破壊され，約15万人の市民が亡くなったり，けがをしたりしました。また日本人ばかりでなく朝鮮人，中国人など多くの外国人も犠牲になりました。

きのこ雲 米軍撮影

柱時計



原子野と化した長崎の町　　小川虎彦氏　撮影

2　被害の様子

原子爆弾は

①熱　線（関連　Ｐ３）
②爆　風（関連　Ｐ６）
③放射線（関連　Ｐ９）

という三つの特性を持っています。この原子爆弾が，長崎の町に大きな被害を与えました。その被害の様子は次のとおりです。

○原子爆弾投下による被害の様子

死者		73,884 人
負傷者		74,909 人
被害を受けた戸数		18,409 戸
内訳	全焼（全部焼けること）	11,574 戸
	全壊（全部壊れること）	1,326 戸
	半壊（半分壊れること）	5,509 戸

※原爆資料保存委員会の報告（昭和 25 年 7 月発表）　昭和 20 年 12 月末までの推定

当時の長崎市の人口が約 24 万人だったので，約 3 分の 2 の人たちが亡くなったりけがをしたりしました。どれだけひどい被害をうけたかがわかりますね。

○長崎型原爆（ファットマン）

長崎に投下された原爆は，長さが 3.25m，直径が 1.52m，重さが 4.5 トンありました。右の写真が原爆資料館に展示してある原爆の実物大の模型です。ずんぐりとした形をしていたので，「ファットマン（ふとっちょ）」と呼ばれていました。

この原爆にはプルトニウムという物質が使われていました。火薬の爆発力を利用して，このプルトニウムに核分裂（火薬の爆発よりはるかに大きな爆発を起こす力を持ったもの）がおこるようにしています。

長崎型原爆（ファットマン）

約 9,600m の高さから投下された原爆は，地上から約 500m のところで爆発しました。爆発の直後に発生した火の玉（大きな火のかたまり）の表面の温度は約 5,000℃ もあり，太陽の表面の温度と同じくらいでした。

（1） 熱線による被害

原子爆弾から出された「熱」は，どのような被害をあたえたのでしょうか。

さて，さきほど原子爆弾から出された火の玉の表面の温度は太陽とほとんど同じで，約5,000℃もあることがわかりました。その熱は地面に届くまでに，少し弱まりましたが，それでも地面の温度は，爆心地で3,000℃から4,000℃もありました。こういう信じられないような高い熱が突然降り注いでくると，どのようなことが起こるのでしょうか。

みなさんが，プールや海で長い時間泳いでいると，太陽があたった背中などは赤く焼けますが，水着でさえぎられた部分はそのまま残りますね。同じように原爆による熱線を直接受けたものは焼けて表面の色が変わりましたが，建物などにさえぎられて影になった部分は元のままでした。

右の写真は板の壁に残った，はしごと監視兵の影です。敵の飛行機を監視する防空監視所から降りたところで原子爆弾のせん光を浴びました。板壁に塗ってあった黒いタールは，ほとんど溶けましたが，人影の部分はそのまま残りました。このように4.4km離れたところでも，強い熱線を浴びたのです。

監視兵の影　　松本栄一氏　撮影
朝日新聞社　提供

① 建物への被害

爆心地の近くでは，燃える物はみんな熱線により発火（火がつくこと）しました。

また，元の形が分からないほど変形してしまったガラス，水のように沸騰して表面にぶつぶつができた瓦，こげて黒くなった石などが，その時の熱の高さを証明しています。

溶けた６本の瓶

爆心地から約100mで発見された瓦
（上部にぶつぶつができている）

爆心地から約１ｋｍで発見されたコンクリート

山里小学校は，当時「山里国民学校」という名前で，爆(ばく)心地から北へ約700mの所にありました。

この日，原子爆弾によって，先生と用務員さんが28人，そして児童1,581人（昭和20年6月末時点）のうち，およそ1,300人が自宅で亡(な)くなりました。

その他に被(ひ)害が大きかった小学校として城山小学校（当時「城山国民学校」）があります。

焼けて空どうとなった山里国民学校
米国戦略爆撃調査団　撮影

原子爆弾による被害をさらに大きくしたのは，火災です。

長崎では，爆心地からかなりはなれた所で，しかも爆発してから約1時間半ほどたってから発火し，これが原因となって大火災が起きています。爆心地から約2.5km離(はな)れている長崎駅は原子爆弾が落とされてから1時間以上経(た)って発火しました。約3.3km離れている長崎県庁(ちょう)からも同じ頃に火が発生しました。これは，なぜでしょうか。

岩川町から南方を見る　　小川虎彦氏　撮影

これらの火は，爆発時の熱線によって燃えるものに火がつき，しばらくくすぶっていたものが燃え上がったものと考えられています。

上空からみた被爆３日後の爆心地一帯
米国戦略爆撃調査団　撮影

木の燃える温度が，だいたい470℃くらいと言われていますが，この温度に達したために，あちこちで，いっせいに燃えだしたのです。

こうして長崎は火の海につつまれました。

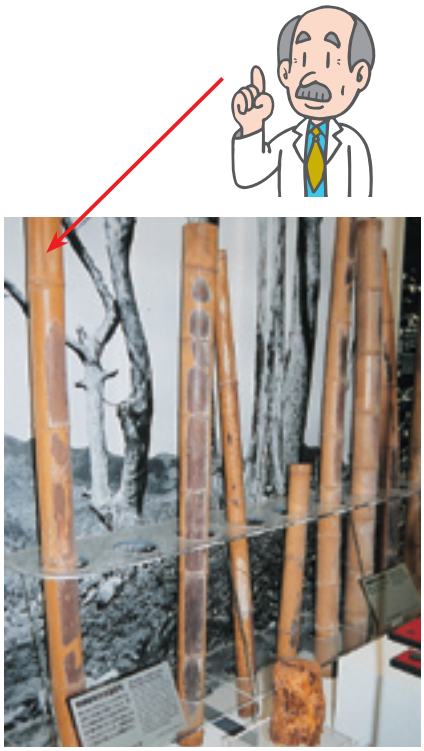
火災による被害の大きさは，この資料の中の写真でもわかります。

被爆したクスノキ　　米国戦略爆撃調査団　撮影
（財）長崎平和推進協会　写真部会　蔵

② 植物への被害

爆心地から南東へ約800mのところにあった山王神社の２本のクスノキは，高さは20mを超え，幹回りは，１本は8m，もう１本は6mもあります。

原爆で枝葉を全部吹き飛ばされ，黒焦げとなった幹が大きく裂け，一時は生存が危ぶまれましたが，その後元気になり枝葉を大きく繁らせました。現在は，長崎市の天然記念物に指定されています。



熱線のあとを示す孟宗竹

この竹は，爆心地から約4.2km離れた滑石町で，被爆から10年後に切り取られました。熱線により表面が黒く変色していますが，枝葉などの影になった部分は白く残っています。他の竹もそれぞれ切り取られた場所や時期は違いますが，同じように黒く変色した部分と白く残った部分があることがわかります。

熱線のすさまじさをこの竹から感じとることができると思います。

③ 人への被害

爆心地に近いところで屋外にいた人は，全身にひどいやけどを負いました。露出した体は腫れあがり，破れた皮膚からは肉があらわれました。即死でなかった人も数日内に死亡する人が続出しました。

日常生活で起こるやけどで，いちばん重傷なのは３度です。これは救急車で運ばれるほどの重傷で，手術が必要なほどの大けがです。

長崎に落とされた原子爆弾は，それ以上のひどさである４度，５度といった重いやけどを生み出しました。やけどをした人は，４kmも離れたところまでおよんでいます。このことからも，どれだけ強い熱線だったかがわかると思います。

（2） 爆風による被害

原子爆弾の爆風は，どれくらいの破壊力があったのでしょうか。そして，どんな被害があったのでしょうか。

原子爆弾が爆発したときに発生した爆風は，爆心地直下で秒速440m（非常に強い台風は秒速 44m 以上で，その10倍の強さ）にたっしました。また 1㎡あたりの圧力は6.7～10トン（ほぼ大型トラック一台分の重さ）にもなりました。爆心地から 1km以内ではこの爆発による風圧で木造家屋はこなごなにこわされました。鉄筋コンクリートの建物などがところどころに残りましたが，それでも建物とはとても思えないようなひどい状態でした。

また，立っていた木はことごとく爆風の方向へと放射状になぎ倒されました。このように恐ろしいほどの破壊力をもつ原子爆弾の爆風は，たくさんの工場や学校などの建物，そして人へとおそいかかり，大きな被害を出しました。

長崎大学医学部附属原爆被災学術資料センター資料

破壊された浦上天主堂　　林重男氏　撮影

原爆により崩れ落ちた浦上天主堂の鐘楼ドーム
（写真右手）　石田壽氏　撮影

被爆前の浦上天主堂
米国陸軍病理学研究所返還資料

① 浦上天主堂

浦上天主堂は，30年以上の歳月をかけて1925（大正14）年に造られました。6,000人が入ることのできる東洋一の規模の，赤れんがで造られた天主堂は，爆心地から約500mというとても近い場所にあったため，前ページの写真のように原子爆弾の爆風でこなごなにこわれてしまいました。

また，別の角度から撮影された上の写真は原爆により崩れ落ちた鐘楼（およそ50トン）を写しています。この鐘楼は，今も崩れ落ちた当時のままの状態で公開されており，原爆の凄まじさを物語っています。

浦上天主堂の破壊された姿を，広島の原爆ドームのように保存しようとする動きがありましたが，新しい天主堂を造るためなどの理由でこわされました。今では遺壁の一部（天主堂の南側のこわれて残っていた壁の一部）が原爆落下中心地碑の近くに移築してあり，石柱がずれた様子などを見ることができます（関連P19）。再建された現在の天主堂の前庭には，強烈な熱線により変色したり爆風により一部が吹き飛んだりした聖像などが置かれています（関連P22）。

② 鎮西学院中学校（現・活水中学・高等学校）

鎮西学院中学校は，爆心地から南西に約500mの小高い丘の上に建っていて，４階建ての鉄筋コンクリートの校舎でした。被爆当時は，工場として校舎の１階と２階，地下室，雨天体操場を使用していました。原子爆弾の爆風で４階は全部，３階は爆心地に面した北側半分がこわされました。被爆当日も90人近くの従業員が働いていて，ほとんどの人が亡くなりました。

破壊された鎮西学院中学校　米国戦略爆撃調査団　撮影

③　城山国民学校（現・城山小学校）

城山国民学校　　米国戦略爆撃調査団　撮影

城山国民学校は，爆心地から西に約500m に位置し，九州初のコンクリート３階建て白亜の校舎を持つモダンな学校として有名でした。この立派な校舎も原爆により，本館は土台から西へかたむき内部は破壊されてしまいました。そのときは夏休みでしたが，学校には先生らが会議などのため出勤していました。その多くは死亡しましたが，数名が奇跡的に助かったといわれています。

右上の写真の校舎には三菱兵器製作所の事務所があり，学徒動員として従業員といっしょに働いていた学生の多くも亡くなったといわれています。また，自宅にいた児童のほとんども死亡し，生き残った先生５人と生徒 14 ～５人が，11 月に稲佐国民学校の一教室で授業を再開しました。

④　大橋町のガスタンク（現・県営アパート）

大橋町のガスタンク　　小川虎彦氏　撮影

爆心地から北に約 800m に位置した大橋町のガスタンクは，１万㎥（長崎港にあるドラゴンプロムナードの球体約 25 個分の容積）という大きなものでした。爆風によりタンクは，真ん中から崩れ落ちるように押しつぶされ壊れました。タンクにはガスが少ししか残っていなかったので，爆発しなかったと報告されています。またこの近くにあった従業員の社宅も壊れてしまい従業員やその家族など 36 人が亡くなりました。

三菱長崎製鋼所　　米国戦略爆撃調査団　撮影
（財）長崎平和推進協会　写真部会　蔵

⑤　三菱長崎製鋼所（現・ブリックホール一帯）

爆心地から南に約 1.2㎞に位置した三菱長崎製鋼所は，強い爆風によって，外壁は吹き飛ばされ，残った鉄骨は曲がりました。当日は，約 300 人の※学徒動員をあわせると約 2,000 人が出勤していましたが，そのうちの 70%近くの人が死亡または重傷を負いました。

※学徒動員　戦時中に多くの男性が戦争にいっていたので，高校や中学校の生徒までが工場などで働くよう強制されていました。

（3） 放射線による被害

原子爆弾から出される放射線とはどのようなものなのでしょうか。そして，どんな被害があったのでしょうか。

① おそろしい放射線

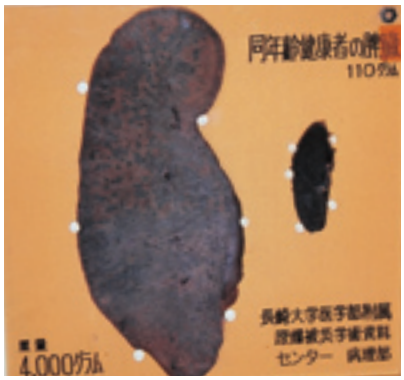
原子爆弾がふつうの爆弾とちがうのは，放射線を出す性質を持ったウランやプルトニウムを原料にして作った爆弾だということです。原子爆弾は爆発のしゅん間に放射線をたくさん放出します。放射線は目で見たり手でさわったりできないのですが，この放射線を浴びると，その浴びた量により，人や動物はすぐ死んだり，あとから亡くなったりするのです。また亡くならなかった人でも，身体のいろいろな器官や部分の働きが悪くなって病気になったりするのです。

ただし，この放射線は平和的な利用もされています。実は，私たちが病院などで受けるレントゲン撮影（X 線撮影）の X 線も放射線なのです。けれどもこのときの放射線はとても弱くして使うので人体には影響が少ないと言われています。

② 人体の被害

原子爆弾が爆発したとき，子どもたちにはこの爆弾の本当の恐ろしさがわかりませんでした。当時９歳だった野口貞子さんは，「何がなんだか，私にはわかりませんでした。とにかく，ここにいては危ないというので，防空ごうに連れて行かれました。そこに，じっと座っているうちに，頭も，体も，だんだんぼんやりしてきました。何だか，ひどくつかれて，病人のような気がします。ただ，むちゃくちゃに，のどがかわいて，しかたがありませんでした。そこへ，よその兄さんが，一升びんに，水を入れてもって来ました。それをもらって飲んだときのうまかったこと！けれども，まもなく，それをすっかり吐いてしまいました。そのとき，青い物，黄色い物，赤い物を吐きました。」と手記に書きました。

大量の放射線を浴びた人は，吐いたり，下痢をしたり，熱がでたりして全身が弱り，たとえ傷ついた様子がなくても，一週間ほどしてから亡くなる人が増えました。また，髪の毛が束になって抜けおちる人も多く，とても不安な気持ちになりましたが，２か月ほどするとまた生えてきたそうです。そのほか眼の水晶体（レンズ）が，白くにごって見えにくくなる原爆白内障という病気になる人も多くいました。



恐ろしいことにこの放射線は，お母さんのお腹のなかで被爆した赤ちゃんの脳の発育などにも悪い影響を与えていました。また，被爆した人には，６年ぐらいたってから血液の「がん」といわれる白血病にかかる人がふえました。現在でも胃や肺など体のいろいろなところに「がん」ができる人の割合が高いといわれています。

脾臓の写真
これは被爆し，白血病にかかった人の脾臓という内臓の写真です。
健康な状態の人の脾臓と比べて，40 倍近い大きさになっています。

（4） 救援・救護活動

原子爆弾が落ちた後，被害者を救う活動はどのようになされたのでしょうか。

○救援・医療

原子爆弾が投下されたことにより，爆心地に近いところにあった長崎医科大学（今の長崎大学医学部）も大きな被害を受けました。傷ついた人々を助けるはずだったお医者さんや看護婦（今の看護師）さんの多くも亡くなったり傷ついたりしました。生き残ったお医者さんや看護婦さんによって救護活動が始められましたが，薬や器材が不足し，応急処置さえ十分にできない状態でした。

『被爆者救援列車』　寺井邦人氏　画

このように混乱した状態の中，負傷者を市外の病院などに運ぶ救援列車が走りました。９日の夜中までに４本の救援列車が，およそ3,500人の負傷者を諫早や大村などへ運びました。

９日の夕方ごろには佐世保や大村などの海軍病院などから救護隊が，夜には長崎県下の40の町や村からも警防団を中心とした救護隊が，長崎にかけつけました。

新興善国民学校は，医療救護などの訓練を行っていた救護所のひとつでした。爆心地付近の救護所や長崎医科大学がこわれていたので，たくさんの負傷者が集まりました。治療方法がわからないので次々と人が亡くなるなか，献身的な救護活動が続けられました。

現在，学校のあった場所は，市立図書館が建てられ，その当時の救護所の様子が再現されています。

新興善国民学校・救護所　　富重安雄氏　撮影
朝日新聞社　提供

新興善国民学校内に開かれた治療室
小川虎彦氏　撮影

（5） 永井　隆　博士

永井隆博士とは，原子爆弾とどのようなかかわりがあった人なのでしょうか。

①　永井博士の医療活動

長崎医科大学の助教授であった永井隆博士は，病院の研究室でレントゲン写真を整理しているときに，被爆しました。博士自身も 3m ほど吹き飛ばされ，右のこめかみを切るなどのけがをしていましたが，第 11 医療救護隊の隊長として，８月 12 日から 10 月８日までの 58 日間にわたり，長崎市郊外の三ツ山地区で負傷者の診療をしました。しかし，12 人の隊員は爆心地で被爆しており，放射線障害に苦しみ，互いに看病しながらの診療でした。

博士は原爆が落とされる２か月前に「白血病であと３年の命」と診断されていました。原爆により大けがをして，妻を失いながらも，被爆者の救護活動に積極的に取り組みましたが，翌年の７月に長崎で倒れ，しばらくすると寝ていることが多くなりました。

永井　隆　博士

②　如己堂

山里小学校から浦上天主堂へ向かう途中に，木造の小さな家（二畳一間，8.42㎡）があります。この小さい家は，1948（昭和 23）年の春に，浦上の人々から博士に贈られたもので，永井博士は「己（自分）の如く（ように）隣人（まわりの人々）を愛しなさい」という意味から，この建物を「如己堂」と名づけました。白血病に倒れた永井博士は，この家で２人の子どもとくらしながら病気と闘いました。そして，病床から数多くの本を出版しました。

永井博士の書物

博士は，1951（昭和 26）年５月１日，43 歳の若さで亡くなりました。今は同じ敷地内に長崎市永井隆記念館が建てられ，博士の遺品などが展示されています。

3　被爆者の訴え

原子爆弾によって，数多くの尊い命が奪われました。ここに，被爆者の貴重な証言があります。私たちに何を訴えているのでしょうか。

（1）「のどが乾いてたまりませんでした」山口幸子（当時９歳）

「ああ！なんということだろう！」母が赤ちゃんをかたくだきしめて言いました。

「…世の終わりではなかろうか？……」私たちは防空ごうの中にひざまずいて，天主様に祈りました。

ごうの中へは，次から次に，けが人が入ってきました。口々に「浦上は火の山だ」と言っていました。……ほんとうにどうなることでしょう。……

ここでは赤ちゃんのためによくないので，防空ごうを出て，山を越え，ミクミゴウチ（現在の三川町）の知り合いの家へ行くことにしました。（中略）

ミクミゴウチへ来てみると，この谷の家々もやられていました。

いったいどこまで行ったら赤ちゃんと産後のお母さんを寝かせる家があるのでしょう？だれもかれも，山かげなどに固まっておどおどしていました。

のどが乾いてたまりませんでしたので，水をくみにいったら，油のようなものが一面に浮いていました。それは空から降ったものだそうです。

（中略）

どうしても水がほしくてたまらず，とうとうそれを油の浮いたまま飲みました。

平和の泉

（2）「おかあさんを焼いた運動場」　辻本一二夫（当時５歳）

ぼくは今山里小学校の４年生だ。運動場はすっかり片づいている。
友だちはここでたくさんの子どもが死んで焼かれたことを知らない。

ぼくは，ふっとあの日のことを思い出す……
お母さんを焼いたその所にしゃがんで，そこの土を指でいじる。
竹で深くいじると，黒い炭のかけらが出る。

土のなかにボーッとお母さんの顔がみえてくる。

上の二つの手記は，永井隆博士が，「原子雲の下にあって，危うく生き残った子どもたちが，

原子雲の下に生きて

どんな目にあい，どんなふうに感じたかを知りたい」という声にこたえて，手記集『原子雲の下に生きて』として1949（昭和24）年に出版したものの一部です。

そして，このような悲しいことが二度とおこらないことを願うとともに，死んでいった友達のめい福を祈るために，記念碑を建てることとなりました。子どもたちは，この手記集の原稿による収入を少しずつ出しあい，それに永井博士が不足部分を加えて「あの子らの碑」を山里小学校の運動場に建てました。

（3）「アイゴーの叫びはわが胸に」　李奇相（当時28歳）

この原爆地獄にあったのは日本人だけではなかったのです。

……いきなりピカッとものすごい稲光がしました。やられた！と思って線路に伏せようとしたが，そのまま気絶してしまったんです。李さん，李さん，と韓さんがゆり起こしたのでやっと気がつき，韓さんに助けられながら長崎駅前の墓地の方へ逃げました。

翌朝，トラックで諫早の国民学校（小学校）へ運ばれました。すると，となりの教室から「アイゴー，アイゴー（痛い，痛い）」という声がいくつも聞こえるので，あっ，朝鮮の同胞（同じ国民）がいると思って，そこへ入って行ったのです。そこには，約60人の丸裸の同胞たちが，焼けただれた肉のかたまりのように横たわってうめいているのです。私が，「どうしたんだよ，みんな！」とたずねると，みんなが寄ってきて，「助けてください，助けてください！」と泣きながら訴えるんです。

追悼長崎原爆朝鮮人犠牲者（碑）

話を聞くと，彼らは，朝鮮から強制的に連れて来られた青年たちで，大橋の兵器工場の外で土木工事をしているときに，被爆して大やけどを負ったのです。聞けば聞くほど私の心の中に，怒りと悲しみがこみあげてきました。

放射線の恐怖は今なお続く

被爆から半世紀以上が経ちました。この「被爆者の訴え」も，ひょっとしたら，みなさんには過去の話と思えるかもしれません。しかし，かろうじて生きのびた被爆者の心と体の不安や苦しみは，うすれるどころか，だんだんと強くなってきています。放射線の恐怖は，今もなお続いているのです。

4　核兵器をめぐる今日の動き

長崎に原子爆弾が投下されてから60年以上が過ぎましたが，原子爆弾や水素爆弾など，核兵器をめぐる今日の動きはどうなっているのでしょうか。

（1）　核兵器をさらに研究・開発し，戦争に備える動き

これまでに核兵器を開発するために，2,000回をこえる爆発実験が行われました。

1945（昭和20）年7月16日，アメリカのニューメキシコ州アラモゴードで人類史上初の原子爆弾の実験が行われました。

その後，1949年　8月　旧ソ連，
1952年　10月　イギリス，
1960年　2月　フランス，
1964年　10月　中国，
1974年　5月　インド，
1998年　5月　パキスタン，
2006年　10月　北朝鮮が
原子爆弾の爆発実験を始めました。

また，1952年　11月　アメリカ，
1953年　8月　旧ソ連，
1957年　5月　イギリス，
1967年　6月　中国，
1968年　8月　フランスが
水素爆弾の爆発実験を始めました。

これまでに行われた核実験

実験の回数（回）	国　名
1,030	アメリカ
715	ロシア（旧ソ連）
45	イギリス
210	フランス
45	中　国
3	インド
2	パキスタン
1	北朝鮮

核弾頭の保有数

核弾頭の数（発）	国　名
10,000	アメリカ
15,000	ロシア
195	イギリス
348	フランス
145	中　国

※核弾頭数は実際に使用できる状態（作戦配備）のものと，貯蔵されているものを合わせたおおよその数です。
（核弾頭の保有数はストックホルム国際平和研究所年鑑　2007年版による）

核兵器って，何？

核兵器とは，ウランやプルトニウムなどの元素が，核分裂や核融合（分裂の反対）を起こすときに大きなエネルギーを出すこと（核爆発）を利用した兵器です。核爆発を起こす核弾頭と，それを運ぶミサイルなどをあわせて核兵器といいます。

こうした国々は，実際の戦争で使うために，今も新しい核兵器をつくり続けています。

その中には，戦場で使う小型の核兵器から，長崎に落とされた原子爆弾の50倍以上もの強い力をもつ大型の核兵器まであります。また，地上や潜水艦・飛行機から発射する核ミサイルや，飛行機から投下する核爆弾など使い方に合わせて様々な型の核兵器が開発されています。

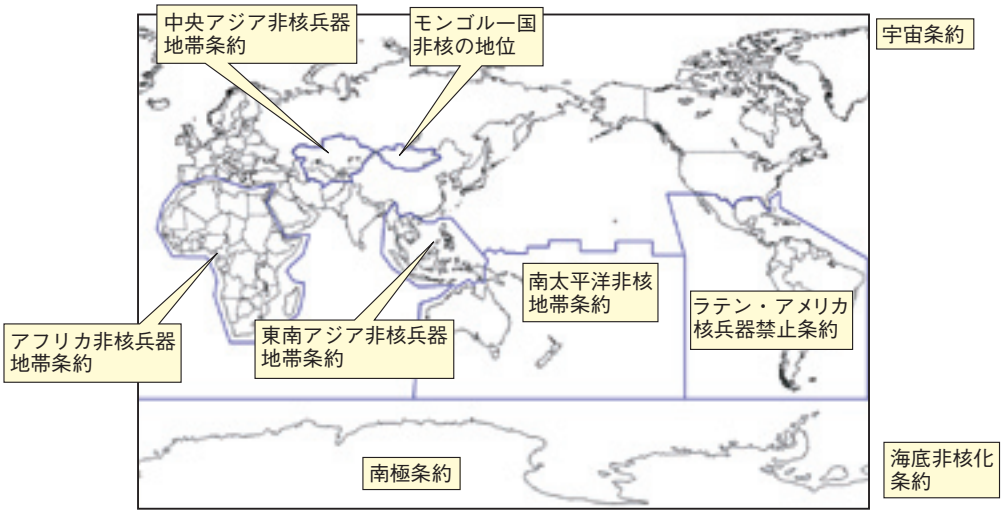
（2） 核兵器の開発や使用をおさえたり反対したりする動き

1954（昭和29）年３月１日，太平洋のマーシャル諸島にあるビキニ環礁でアメリカが行った水爆実験によって，約160㎞離れたところで漁をしていた静岡県焼津のマグロ漁船第五福竜丸と乗組員23人が死の灰（大量の放射能を含んだサンゴ礁の細かいチリ）を浴び，無線長の久保山愛吉さんがその年の９月に亡くなりました。

第五福竜丸として遠洋に出漁したころ（焼津港・1953年６月）
（財）第五福竜丸平和協会　提供

この事件によって，核兵器の恐ろしさが広く知られ，原水爆を禁止しようとする運動が高まっていきました。

その翌年には，初の原水爆禁止世界大会や国際科学者会議が開かれ，核兵器の禁止を求める声明が相次いで出されました。また，核実験を禁止したり核兵器を減らそうとする条約や，ある地域の国々では核兵器を造ったり持ち込ませないように約束する「非核兵器地帯条約」などが結ばれるようになりました。



世界の非核兵器地帯

核兵器をなくすために活動している機関のホームページ

長崎市平和・原爆ホームページ	http://www1.city.nagasaki.nagasaki.jp/abm/index.html
㈶長崎平和推進協会	http://www.peace-wing-n.or.jp/
国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館	http://www.peace-nagasaki.go.jp/
日本非核宣言自治体協議会	http://www.nucfreejapan.com/
平和市長会議	http://www.mayorsforpeace.org/
ヒロシマピースサイト（広島市）	http://www.pcf.city.hiroshima.jp/
国際連合広報センター（ＵＮＩＣ東京）	http://www.unic.or.jp/

5　平和は長崎から

長崎では，これまでに核兵器をなくそうとするどのような活動が行われてきたのでしょうか。

長崎は核兵器のない平和な世界を求めて，様々な活動を続けています。

1949（昭和24）年　長崎市長として平和宣言をはじめて発表する。
1955（昭和30）年　平和祈念像を建立する。
1970（昭和45）年　核実験に対する初の抗議電報を送る。
1985（昭和60）年　世界平和連帯都市市長会議（平成13年８月に平和市長会議へ改称）がはじめて開かれる。
1989（平成元）年　長崎市民平和憲章が定められる。
1995（平成７）年　長崎市長が国際司法裁判所で核兵器の違法性を訴える。

被爆者の中には「かたりべ」として，市内の小中学生や長崎を訪れる修学旅行生に核兵器の恐ろしさを伝え，核兵器がなくなることを訴えている人たちがいます。そうした「かたりべ」の中には，核兵器を持っている国々へ行き，その国の学校などで講演をしている人たちもいます。また，高校生の代表が高校生平和大使として国連や世界のいろいろな国へ行き，核兵器を，そして戦争を世界からなくすことを訴えています。

海外でのかたりべ活動

高校生平和大使

市民の活動グループ（NGO）が，核兵器をなくすことを求めて様々な平和活動を行っています。NGOは，核兵器のない平和な世界を築こうと世界中で呼びかけています。

2000（平成12）年，2003（平成15）年，2006（平成18）年に世界各国の核兵器廃絶をめざすNGOが長崎に集まり，長崎市・県とともに「核兵器廃絶―地球市民集会ナガサキ」という国際会議を成功させ，大きな成果をあげました。

長崎市では，2002年度から「ナガサキ平和学習プログラム」に取り組んでいます。このプログラムは，戦争や原爆について知らない若い人たちにとって，平和な社会づくりを行うきっかけとなるように，平和について，ともに学び，考える平和学習を行うものです。

この中には「青少年ピースフォーラム」など，みなさんが参加できるものもあります。その他，長崎市では核実験に対して抗議を行うなど，いろいろな機会を通じて核兵器の廃絶と平和の大切さを訴えています。

青少年ピースフォーラム

長崎市で行われている平和に関するおもな行事

■平和の灯

毎年８月８日に，主に市内の子どもたちが平和への願いを込めて作製した手作りのキャンドルを灯すことにより，戦争の悲惨さと平和の尊さを伝え，発信しています。

■長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典

毎年原爆投下の８月９日に，原爆でなくなられた方々の霊を慰めるとともに，世界がいつまでも平和でありますようにとの祈りをこめて行なわれています。

この席上での長崎市長の平和宣言は，インターネットを通じて全世界に発信し，核兵器の廃絶と世界恒久平和を訴え続けています。

■原爆犠牲者慰霊・世界平和祈念市民大行進

平和祈念像前から原爆落下中心地までのコースを，子どもから大人までおおぜいの市民の皆さんが参加して行進し，世界に強く平和を訴えています。

■世界平和祈念ポスター・標語展

毎年，世界平和を祈念するポスター・標語を募集し，入賞作品を原爆資料館に展示しています。

長崎市の小・中学生の平和の取組み

■平和祈念式　～永井隆博士生誕100年～　（山里小学校）

山里小学校では，永井隆博士にゆかりの「あの子らの碑」の前で，平和を誓う「平和祈念式」を毎年11月に行っています。今年は，43歳で亡くなられた永井博士が生きていたら100歳を迎える記念の年でした。

■平和の願いを絵で表そう～キッズゲルニカ～　（土井首小学校）

画家ピカソは平和をテーマにゲルニカという作品を残しました。キッズゲルニカは，この作品と同じ大きさの絵を子どもたちで表現しようとする取組みです。土井首小学校の６年生が平和の願いを込めて描きました。

■海外の中学生と平和について語り合おう　（滑石中学校）

修学旅行で長崎に来たシンガポールの中学生に，平和をテーマにした劇を披露しました。その後，平和について英語で意見交換をしました。国は違っても，平和に対する思いは同じであると感じました。

6　被爆地めぐりをしよう

（1）原爆落下中心地付近（祈りのゾーン）

□原爆落下中心地碑

1945（昭和20）年８月９日午前11時２分，原子爆はこの上空約500ｍでさくれつし，約７万５千人の方が負傷し，約７万４千人の方が亡くなったといわれています。

この碑は，高さ6.6m，黒い石で作られており三角柱の形をしています。

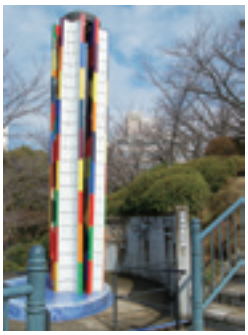
□浦上天主堂の遺壁

爆心地から東北東約500mの距離にあった浦上天主堂は，約30年の歳月をかけ信者が一つ一つのレンガを積み上げつくられました。原子爆弾の投下によるすさまじい爆風により鐘楼ドームは崩れ落ち，わずかな壁を残し破壊されました。壁の一部が爆心地公園に移築されています。よく注意して見ると石柱のずれを確認することができます。

下の写真は，原爆落下中心地付近の記念碑や川です。実際に行って見たものには，□に印を入れましょう。また，記念碑や川の名前も書き入れましょう。（答えはP24～25の地図上にあります。）

□A（　　）

□B（　　）



□C（　　）

□D（　　）

□E（　　）

□F（　　）

□G（　　）

（2）原爆資料館付近（学びのゾーン）

□原爆殉難教え子と教師の像

原子爆弾が爆発したとき，この日，家にいた国民学校（今の小学校）児童約5,800人，工場で働いていた生徒約2,000人，約100人の教師たちは即死，または放射能によりつぎつぎと亡くなりました。この像の下の子どもたちは平和をさけび，上に立つ巨人は原爆の脅威を振り払おうとする姿を表しています。二度と核兵器が使われないことと，原子爆弾で亡くなっていった子どもたちのことを忘れないよう願い建てられました。

（3）城山小学校・山里小学校

城山国民学校は爆心地から西に約500ｍのところにありました。鉄筋コンクリート３階建ての校舎は，はげしい爆風と熱線でばらばらになりました。被爆によって約1,500人の児童のうち約1,400人が亡くなりました。また，教職員29人，県立高等女学校報国隊員100人あまりも亡くなりました。

山里国民学校は，爆心地から北に約700ｍのところにありました。校舎は天井も壁もはげおち，ろうかの床の板も教室のしきりもほとんど燃えつきて，コンクリートがむき出しになりました。被爆によって児童約1,581人（昭和20年６月末時点）のうち約1,300人が亡くなりました。

□城山小平和祈念館

□嘉代子桜（城山小）

□少年平和像（城山小）

□あの子らの碑（山里小）

□防空ごう跡（山里小）

（4） 平和祈念像地区（願いのゾーン）

□平和祈念像

この像は原子爆弾投下から10年目に完成しました。犠牲者の追悼と，二度とあのような悲惨な出来事は繰り返してはならないという思いを込めてつくられました。また，その台座部分を除く建設費用は，日本国内だけではなく海外からも寄付金が寄せられました。像の後ろには，作者の北村西望氏の思いが刻まれています。毎年８月９日にはこの像を前にして平和祈念式典が行われ，人々が平和への誓いを新たにしています。

□長崎刑務所浦上刑務支所遺壁

原爆のさくれつによって倒壊した鉄筋コンクリートの塀や，建物の基礎部分が残されています。

□平和の泉

被爆直後，「水を…」「水を…」とうめき，叫びながら多くの人が死んでいきました。

前面の石に刻まれている手記を書き写しましょう。

□世界平和シンボルゾーン

平和公園にはいろんな国や都市から平和を願ってモニュメントが贈られています。どんな国や都市から贈られているのか平和公園に行って確かめてみましょう。

見つけたものに印をつけましょう。

□諸国民友好の像（旧東ドイツ） □人生の喜び（旧チェコスロバキア） □平和（旧ソ連） □Ａコール（ブルガリア） □平和の碑（ブラジル・サントス市） □無限（トルコ・アンカラ市） □戦争に対する平和の勝利 （アルゼンチン・サンイシドロ市） □平和の記念碑（ポルトガル・ポルト市） □未来の世代を守る像 （オランダ・ミデルブルフ市）	□人生への讃歌（イタリア･ピストイア市） □太陽と鶴（キューバ） □乙女の像（中国） □地球星座（アメリカ・セントポール市） □生命と平和との花 （ポーランド） □平和のマント （ニュージーランド）

（5） 浦上天主堂・如己堂

被爆前，東洋一の規模を誇っていた赤レンガ造りの浦上天主堂は，一発の原子爆弾によって壊滅しました。この地区に住んでいた信徒約 12,000 人のうち，約 8,500 人が亡くなったといわれています。

□浦上天主堂・被爆天使の像

天主堂の側面を飾っていた天使像などは多くが壊れてしまいましたが，原爆の傷跡を残す聖像の一部は新しく建てられた天主堂の前庭に安置されています。

□鐘楼ドーム

約50トンの重さがある双塔ドームの鐘楼のひとつが，今も崩れ落ちた当時のまま公開されています。

□如己堂

□永井隆博士の子どもたちへの想い

> 一日でも一時間でも長く生きてこの子の孤児となる時をさきに延ばさねばならぬ。一分でも一秒でも死期を遅らしていただいて，この子のさみしがる時間を縮めてやらねばならない。
>
> （永井隆著『この子を残して』より）

自らも被爆し，重傷を負いながら，献身的に被爆者の救護にあたった永井隆博士が，生前二人の子どもとともに住んでいた二畳一間の家です。

如己堂の名は，『聖書』の一説にある「己の如く隣人を愛せよ」という言葉をとって，博士自ら名づけられました。

如己堂のとなりにある永井隆記念館には，博士の遺品，書画，原稿，著書などが展示してあります。博士の生涯，著書などを調べ，博士の人柄に触れてみましょう。

【永井隆博士の略歴・著書】

【永井隆博士の生き方をどのように思いましたか】

（6）長崎大学医学部・山王神社・坂本国際墓地

□長崎医科大学門柱

爆心地から約600mの距離にあるこの門柱は1.2m四方，高さ1.8mという大きいものですが，爆風により傾き，台座との間に最大16cmの隙間ができました。原爆による爆風がどんなに強いものだったかが，この門柱からもわかると思います。大学の建物は木造だったので完全に破壊され，すぐに火災がおこりました。また，ちょうど講義の最中だったため先生や学生など合わせて約900人が亡くなりました。

□山王神社・二の鳥居

爆心地から約800mの距離にあるこの鳥居は，ものすごい爆風で爆心地側は倒れましたが，片方は残りました。風圧により上部の「笠石」と呼ばれる部分が約5cmずれています。また，柱に刻まれた奉納者の名前は熱線のため一部が溶けて読めなくなっています。現在でも鳥居のすぐ横に倒れた片方の柱などが当時の姿のまま残されています。

□山王神社の大クス

樹齢500年以上と言われるこの2本のクスノキは爆心地から約800m離れた山王神社の境内にあります。原爆の熱線と爆風により，一時枯れてしまうかと思われましたが，しだいに新しい芽がではじめ見事によみがえりました。しかし原爆で焼かれた幹には今もその傷跡を残しています。

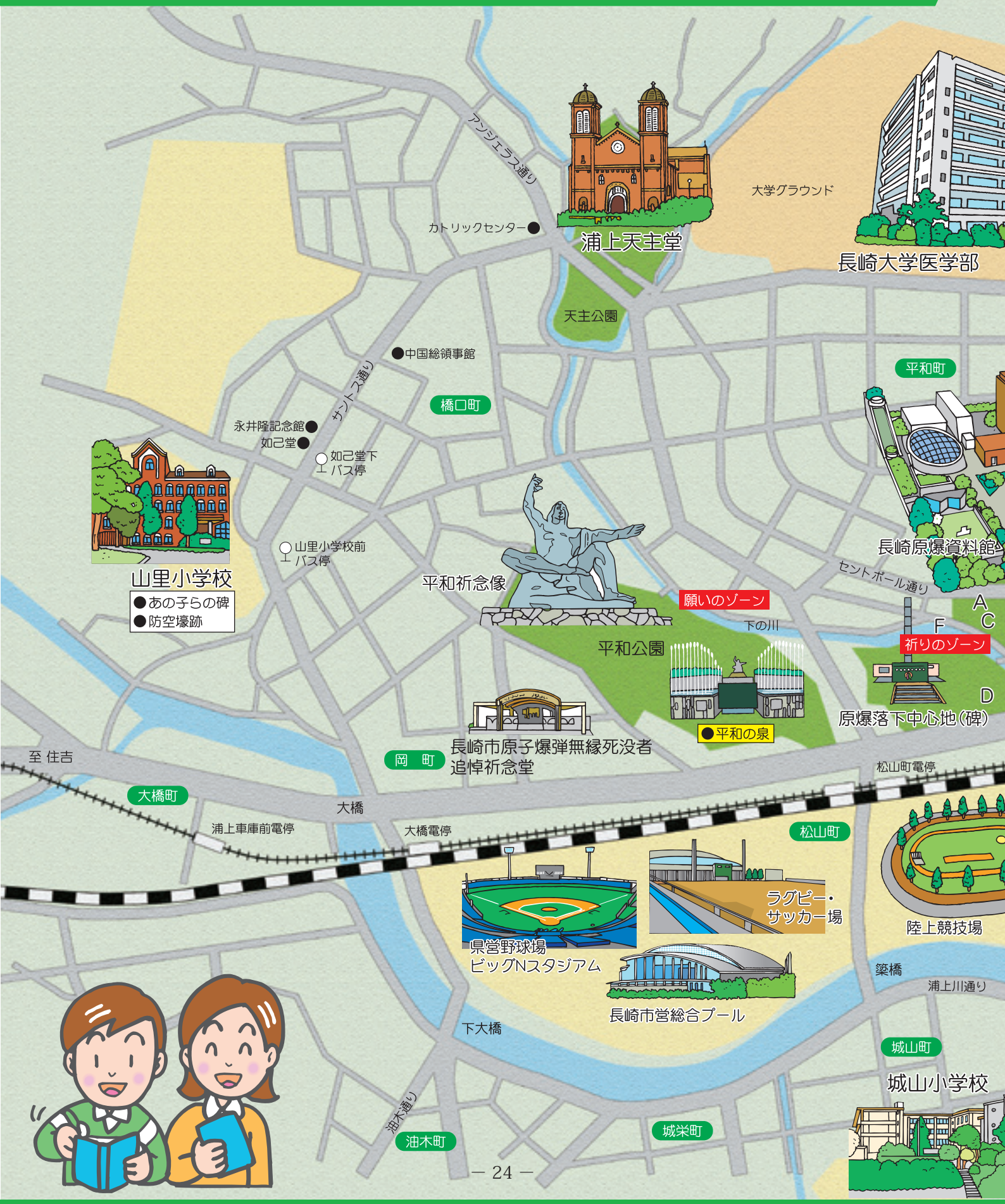
1969（昭和44）年長崎市の天然記念物に選ばれ，1996（平成8）年には環境庁の「残したい日本の音風景 ―100選―」に選ばれています。また，落ちた種から育てた苗木は被爆クスノキ二世として各地へ贈られています。

□坂本国際墓地

爆心地から南に1kmのところにあり，イギリス人の商人トーマス・グラバー，その息子の倉場富三郎，被爆者医療につくした永井隆博士など，数多くの人々の墓があります。

被爆によって多くの墓石やサクラの木が根元からたおされました。

被爆地めぐり地図

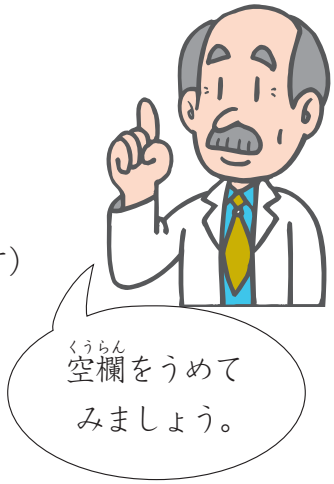

アンジェラス通り
カトリックセンター
浦上天主堂
大学グラウンド
長崎大学医学部
天主公園
中国総領事館
サントス通り
橋口町
平和町
永井隆記念館
如己堂
如己堂下
バス停
山里小学校前
バス停
山里小学校
あの子らの碑
防空壕跡
平和祈念像
願いのゾーン
長崎原爆資料館
セントポール通り
A
C
F
祈りのゾーン
D
原爆落下中心地（碑）
下の川
平和公園
平和の泉
長崎市原子爆弾無縁死没者
追悼祈念堂
岡　町
至 住吉
松山町電停
大橋町
大橋
浦上車庫前電停
大橋電停
松山町
ラグビー・
サッカー場
陸上競技場
県営野球場
ビッグNスタジアム
長崎市営総合プール
築橋
浦上川通り
下大橋
城山町
城山小学校
油木通り
油木町
城栄町

さあ、みんなででかけよう！

（P19の答え）…
A　隈　治人句碑
B　電鉄原爆殉難者追悼碑
C　長崎誓いの火
D　被爆50周年記念事業碑
E　平和の母子像
F　下の川
G　福田須磨子碑

メ　　モ

クイズコーナー



これまで学習してきたことを，クイズで復習してみましょう。
何問解けるかな？　　（答えは次ページ下にあります）

1．長崎に原子爆弾が落とされた日は，19〇〇年〇月〇日です。

2．原子爆弾の３つの特性は，熱線，爆風，〇〇〇です。

3．〇〇〇博士は，被爆当時，長崎医科大学の助教授で，後に原子爆弾にあった子どもたちの手記集「原子雲の下に生きて」など，数多くの本を出版し，原爆のひさんさと平和の大切さを訴えました。

4．原子爆弾や水素爆弾など，ウランやプルトニウムなどの元素が核分裂や核融合をおこす時に大きなエネルギーを出すことを利用した兵器を〇兵器といいます。

5．1954年アメリカがビキニ環礁で行なった水爆実験で死の灰をあびた漁船の名前は第五〇〇〇です。

6．自分の被爆体験を市内の小中学生や修学旅行生に語り，原子爆弾のおそろしさ，平和の大切さを訴える活動をしている被爆者の方々を「〇〇〇〇」といいます。

7．平和公園周辺は，大きく分けて３つのゾーンに分かれ，それぞれ呼び名があります。原爆落下中心地付近を「〇〇のゾーン」，原爆資料館付近を「学びのゾーン」，平和祈念像地区を「願いのゾーン」と呼びます。

8．爆心地から西に約500mのところにあったため，建物は破壊され，多くの教職員と児童のほかに，学徒動員として働きにきていた多くの学生たちが亡くなり，そこで娘を亡くした母親によって植えられた「嘉代子桜」は，〇〇小学校の校庭にあります。

9．被爆前，東洋一の規模を誇っていた赤レンガ造りの〇〇天主堂は，原子爆弾によって壊滅しました。

10．原子爆弾の熱線と爆風により，一時枯れてしまうかと思われましたが，見事によみがえったのは，山王神社の大〇〇です。

～ホームページの活用～

長崎市内には数多くの被爆に関する建物や，記念碑（きねんひ）があります。ここで紹介しきれなかったものについては，「長崎市平和・原子爆弾ホームページ」上の「平和公園周辺マップ」の中で見ることができます。被爆地めぐりをする時に，ぜひホームページを見てください。

その他にも，新しく「キッズ平和ながさき」という，子ども向けのページができましたので，調べ学習をする時などに活用してください。

■　長崎市平和・原爆ホームページ（平成21年４月にリニューアル予定）

（アドレス）　http://www1. city. nagasaki. nagasaki. jp/abm/index. html

長崎市平和・原爆ホームページ
おもな掲載（けいさい）内容（予定）

○原爆資料館	○核兵器の廃絶へ
○原爆の記録	○平和関係団体の紹介
○教材の貸し出し	○平和への取り組み
○被爆体験講話	○平和学習
○平和公園周辺マップ	○キッズ平和ながさき
○長崎平和宣言	

「平和ナガサキ（小学生用）」おもな参考文献

長崎市編「長崎原子爆弾戦災誌」
長崎市編「長崎市制六十五年史」
長崎市編「長崎原爆資料館ガイドブック」
核兵器廃絶地球市民長崎集会実行委員会編「核兵器廃絶―地球市民集会ナガサキ報告書」
広島市長崎市原子爆弾災害誌編集委員会編「広島・長崎の原子爆弾災害」　岩波書店
「長崎原爆資料館　資料館見学・被爆地めぐり「平和学習」の手引書」
（財）長崎平和推進協会
永井　隆著「この子を残して」　サンパウロ出版社
山口典人作ほか「かよこ桜」　新日本出版社
黒沢　満編「軍縮問題入門」　東信堂
小路敏彦著「長崎医科大学壊滅の日」　丸の内出版

（前ページのクイズの答え）１．1945年８月９日　２．放射線　３．永井隆　４．核　５．福竜丸　６．かたりべ　７．祈り　８．城山　９．浦上　10．クス

保護者のみなさんへ

1945（昭和20）年８月９日，午前11時２分。美しい長崎の町は，米軍機から投下された，たった一発の原子爆弾により廃墟と化しました。

あの惨劇から半世紀以上を経過し，長崎の町が国際文化都市として復興する一方で，被爆の記憶は徐々に風化しつつあるように思われます。

また，この原子爆弾の恐ろしさをありのままに伝えてくれる「語りべ」の方も，これから段々と高齢化していくなかで，この悲惨な体験と戦争の恐ろしさを次代を担う子どもたちに語り伝えていくことは本市の責務であります。

この平和学習資料によって，子どもたちが「あの夏の日」に長崎で起きたことや「平和への願い」を理解する一助となるとともに，保護者のみなさまにもぜひご一読いただき，ご家庭や地域などで，核兵器や戦争のない平和な世界について話し合っていただく契機になれば幸いです。

付　記

本教材は，平成13年10月，長崎市に提出された「ナガサキ平和学習プログラム検討委員会」からの提言書を受け，年間を通じて利用できる教材を提供する目的で作成しました。

当時８人の編集委員が作成したものに，加筆訂正を加えています。

平成15年３月31日　初版発行
平成21年３月31日　第７版発行
企画編集　長崎市原爆被爆対策部
　　長崎市教育委員会
発　　行　長崎市原爆被爆対策部
印 刷 所　㈲正文社印刷所

長崎市民平和憲章

私たちのまち長崎は，古くから海外文化の窓口として発展し，諸外国との交流を通じて豊かな文化をはぐくんできました。

第二次世界大戦の末期，昭和20年（1945 年）8月9日，長崎は原子爆弾によって大きな被害を受けました。私たちは，過去の戦争を深く反省し，原爆被爆の悲惨さと，今なお続く被爆者の苦しみを忘れることなく，長崎を最後の被爆地にしなければなりません。

世界の恒久平和は，人類共通の願いです。

私たち長崎市民は，日本国憲法に掲げられた平和希求の精神に基づき，民主主義と平和で安全な市民生活を守り，世界平和実現のために努力することを誓い，長崎市制施行 100 周年に当たり，ここに長崎市民平和憲章を定めます。

1　私たちは，お互いの人権を尊重し，差別のない思いやりにあふれた明るい社会づくりに努めます。

1　私たちは，次代を担う子供たちに，戦争の恐ろしさを原爆被爆の体験とともに語り伝え，平和に関する教育の充実に努めます。

1　私たちは，国際文化都市として世界の人々との交流を深めながら，国連並びに世界の各都市と連帯して人類の繁栄と福祉の向上に努めます。

1　私たちは，核兵器をつくらず，持たず，持ちこませずの非核三原則を守り，国に対してもこの原則の厳守を求め，世界の平和・軍縮の推進に努めます。

1　私たちは，原爆被爆都市の使命として，核兵器の脅威を世界に訴え，世界の人々と力を合わせて核兵器の廃絶に努めます。

私たち長崎市民は，この憲章の理念達成のため平和施策を実践することを決意し，これを国の内外に向けて宣言します。

平成元年 3 月 27 日　長崎市議会議決

長崎市平和・原爆ホームページ
http://www1.city.nagasaki.nagasaki.jp/abm/index.html

	小学校
年	組
名前	